科目名	学校教育学特論
科目属性	専門科目Ａ群
担当教員	手島　純
単位数	２単位（SC　0.5 単位）

【授業の目的・ねらい】
【授業概要】
　日本の学校教育は、明治期に公布された学制以来、国家の方針として充実が図られてきた。しかし、そこには明治以前に培われてきた伝統的な教育の手法が軽視されてきた部分もある。その後、戦争を挟み、1947 年の教育基本法・学校教育法の制定で日本の教育は大きく変わった。その変化の本質を把握することは大切である。さらに現在、学制から約 150 年の節目を迎え、グローバル社会の到来と共に日本社会は大きく変化している。新学習指導要領はその変化を意識したものになっている。加えて、AI の登場は新学習指導要領でも無視できなくなっている。
　こうした状況の下、長いスパンと鳥瞰的視点で今日の教育を俯瞰する必要がある。本授業では学校教育の現状を明らかにして、それを歴史的に検討しながら、これからの教育についても考察を深めたい。
　また、今日ではグローバルスタンダードとなっている共生教育、つまり個性を大切にして人を排除しない教育について、以上の視点を踏まえながら考察し、実践に資するよう検討を行う。

【授業の到達目標】
１．社会の大きな転換期における学校教育の現状と課題を把握することができる。
２．初等・中等教育の目標と内容を中教審答申の記述に沿って理解できる。
３．日本の初等・中等教育の発展の歴史を戦前・戦後の比較の上で理解できる。
４．共生社会に必要な”共生教育”の理念に照らし、わが国の初等・中等教育を検証できる。

【授業計画】
１．　学制に至る日本の社会状況とその後の国民の反応
２．　日本の軍国主義下における教育の実態
３．　戦後日本の復興と教育
４．　「アメリカ教育使節団報告書」の内容
５．　教育関連法案の成立過程
６．　日本の教育の発展と課題
７．　中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（以下、中教審答申）での「グローバル社会とその問題点」
８．　中教審答申「一人一人を大切にする教育とは何か」
９．　中教審答申「2030 年の社会と子供たちはどうなっているか」
１０．小学校学習指導要領
１１．中学校学習指導要領
１２．高等学校学習指導要領
１３．現在の学校教育の問題点
１４．現在の学校教育の問題点における実践的解決とは何か
１５．共生社会に必要な”共生教育“充実のためのシステムと実践面からの戦略

【評価方法】
「スクーリング評価」（25%）、「レポート評価」（25%）、「科目修得試験」（50%）の割合で総合して評価する。

【教科書】
1. 中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成 28 年 12 月）（【概要】でも可）
2. 中央教育審議会答申「「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと、協働的な学びの実現（令和３年１月）※インターネットで取得可能

【参考図書】

1. 木村元（2015）『学校の戦後史』岩波書店　ISBN：978-4004315360
2. 村井実（全訳解説）（1979）『アメリカ教育使節団報告書』講談社　ISBN：978-4061582538